



平成 27 年 5 月 13 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 リ プ ロ セ ル  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 横 山 周 史  
(コード番号：4978)  
問 合 せ 先 取 締 役 片 山 浩 美  
(TEL. 045-475-3887)

### 平成 27 年 3 月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 26 年 11 月 12 日に発表いたしました平成 27 年 3 月期通期（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）の業績予想について、下記のとおり修正することとしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成 27 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 ( A )	百万円 699	百万円 △298	百万円 △188	百万円 △192	円 銭 △3.94
今 回 修 正 予 想 ( B )	567	△740	△456	△451	△9.01
増 減 額 ( B - A )	△131	△442	△268	△259	—
増 減 率 ( % )	△18.9	—	—	—	—
(参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期)	460	△93	△132	△133	△3.08

#### 2. 修正の理由

前回発表予想比との売上差異については次の通りであります。

研究試薬製品において、国内の試薬製品市場において比較的高いシェアを維持し、下期偏重の売上傾向がありますが、第 4 四半期以降に期待された国内市場全体の成長が足踏みし、当社の試薬製品の国内売上が伸びなかったことによります。

海外展開においては、海外グループ会社製品のクロスセルを強化しておりますが、顧客認知や製品理解の浸透に従来想定よりも多くの時間を要したため、当期のクロスセルによる増収効果は一定の成果が得られたものの、想定した水準には達しておりません。

費用面では、経費節減に努めた運営を行ってりましたが、連結決算に取り込むグループ会社 3 社の費用や、のれん計上額確定によるのれん償却費の算定見直し、支払報酬等の M&A 関連費用の計上を精査したことにより、費用見込みが前回予想よりも上回ることとなり、今回の利益予想が前回予想を下回る見通しです。

この他、営業外収益として、補助金収入、為替差益を計上することにより、経常利益の増加要因となっております。

以上により、当連結会計年度の業績予想を修正するものであります。

※本業績予想の修正につきましては、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想値と異なる可能性があります。

### 3. 今後の展開

細胞製品については平成27年3月期に販売単価を引き下げましたが販売件数が国内を中心に大幅に増加しております。細胞製品の価格見通しについては安定傾向にあるため、翌期以降の売上増加を見込んでおります。

研究試薬製品及び細胞製品は今後、海外への販路拡大を第一優先として取り組んでまいります。iPS細胞事業の市場はグローバルな成長が始まっており、本格的な市場拡大に即した高い収益性を確保すべく、リプロセルグループの海外展開を加速させ、各社一体となってクロスセルを中心とした販売強化を推進してまいります。また、今後の成長の主軸となる細胞製品は、BioServeとStemgentを買収したことで、iPS細胞の技術プロセスの上流から下流までを当社グループでカバーすることが可能となりました。製品ラインナップが大幅に拡充されると共に、顧客のきめ細かな要望に応えるカスタムメイドの疾患モデル細胞製品をワンストップで提供可能になったことから、顧客利便性が大幅に向上しており、今後の重点領域として販売を加速させてまいります。

以 上